



人間はどうして話ができるの

自分の気持ちを相手によく伝えるため

人間は、大昔から大ぜいの人が集まって、助け合っけてくらししてきました。大ぜいの人、みんなで仲良くくらすためには、それぞれの人が、自分の気持ちを、ほかの人に、よく伝えることが大切です。

まだ、ことばのなかった大昔の人は、自分の気持ちやできごとを、絵や身ぶりなどでほかの人に伝えていましたが、そのうち、いろいろなことばが生まれ、そのことばを記憶したり、話したりするようになって、何でもよく伝わるようになったのです。

話すために大切な口と舌と脳

話をするためには、のどの奥にある、声帯というものを息でふるわせて声を出します。しかし、話をするためには、ただ、声を出すだけではなく、ことばにしなければなりません。

声をことばにするには、口と舌が大切です。口と舌を動かして、いろいろな形にすることによって、声をことばにすることができます。

また、声帯をコントロールしているのは脳です。脳の「運動性言語中枢」というところが、その役目をしており、この部分に傷などがつくと、ことばを聞いて理解できても、しゃべることができなくなります。（監修・保志 宏）

